寄付のお願い

西淀川のアイデンティティを探る研究会を立ち上げます！

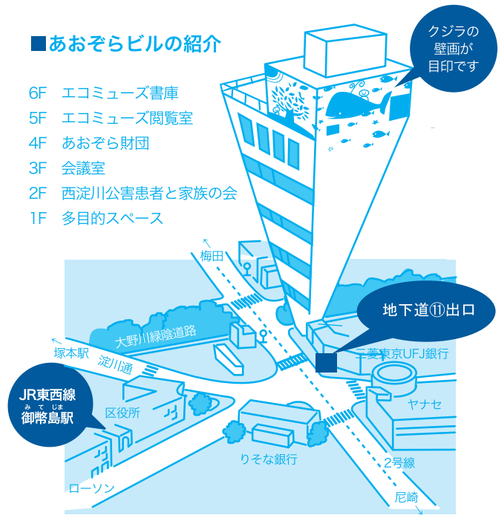
エコミューズでは設立から10年間の活動の中で、西淀川大気汚染公害裁判の資料整理と保存を活動の軸としつつ、様々な研修活動をはじめ、他の大気汚染地域の公害裁判資料整理や、全国の公害被害地との連携を進めてきました。
そうした中で、改めて西淀川公害とそれと闘った裁判の果たした役割、歴史的意義を明らかにし、過去に経験した公害が現在に対しどのような意味を持っているのかを問い直すために、研究会を立ち上げることといたしました。
特に注目する点は、西淀川という都市のアイデンティティです。なぜ西淀川が公害克服の先進的取り組みをなしえたのか。被害者・住民、企業、行政などのステークホルダーが協働して公害を克服してきた、その背景のひとつとしてある**西淀川地域のコミュニティやソーシャルキャピタルの分厚さを歴史的・実証的に明らかにすることをめざします**。従来、公害患者から聞き取りされてきた被害者としての側面だけでなく、幅広く住民の暮らしの実情を明らかにします。また、西淀川公害反対運動が始まってから40年、裁判が和解してから20年近くが経過した今だからこそ語ることのできる当事者の言葉を通し、和解に至る過程を解明することで、西淀川公害が全国的、もしくは世界的にもっている意味を考え直せるのではないかと考えています。ご協力、よろしくお願いいたします。

- ■ 寄付目標　200万円
- ■ 内訳　映像撮影・編集機器の整備、テープおこし、人件費
- ■ヒアリング　20人（西淀川地域住民、被害者、原因企業関係者、マスコミ、行政関係者　等）
- ■ 寄付方法　下記口座へのお振り込みください

郵便振替　00960-9-124893　　加入者名　あおぞら財団
※通信欄に「西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）基金」と記入ください

■あおぞらビルの紹介

6F　エコミューズ書庫
5F　エコミューズ閲覧室
4F　あおぞら財団
3F　会議室
2F　西淀川公害患者と家族の会
1F　多目的スペース



●JR東西線「御幣島(みてじま)」駅下車⑪番出口よりスグ
●阪神電車「姫島」駅より徒歩10分
●JR神戸線「塚本」駅より徒歩15分

あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）では大阪・西淀川大気汚染公害に関する記録資料を中心に、公害・環境問題や西淀川地域に関する資料・文献などを収集・整理・保存しています。

あおぞら財団附属 西淀川・公害と環境資料館 エコミューズ　あおぞらビル5F

06・6475・8885［要予約］
F A X● 06・6478・5885
E-mail● webmaster@aozora.or.jp（あおぞら財団）
H　P● http://www.aozora.or.jp/ecomuse/
住　所● 〒555-0013
大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル5F
開　館● 月曜日、金曜日（祝日は休み）10:00AM～5:00PM
利　用● 図書の貸し出し期限は２週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ
※個人のプライバシーを含む、あるいは整理中の資料は、公開できない場合がありますのであらかじめご了承ください。
※資料複写可（一部を除く。料金は1枚10円）

あおぞら財団 The Aozora Foundation 公益財団法人 公害地域再生センター

資料館だより　エコミューズ10周年特別号

発　行　：あおぞら財団附属・公害と環境資料館（エコミューズ）
発行日　：2016年10月
館長　　：小田康徳
研究員　：鎗山善理子、林美帆、栗本知子（2006-2016）
スタッフ　：増田純子、浅井真二、池田風弥、石川僚子、樫本喜一、田尻悠太、森本米紀、天野憲一郎、長沼光世、阿山勲、藤井正太
水田亜由美、北嶋奈緒子、佐々木真弓、松ケ平あかね、村山知子（2006-2016）

ECOMUSE

資料館だより

特別号

No.57
2016年
10月号

過去と未来がひびきあう
ーようこそ、エコミューズへ。
www.aozora.or.jp/shiryou/

あおぞら財団附属 西淀川・公害と環境資料館 エコミューズ

あおぞらビル6F エコミューズ書庫

エコミューズ 10周年特別号

目次

・ごあいさつ　エコミューズ館長 小田康徳・・・2
・エコミューズ 活動年表・・・3
・エコミューズ トピックス紹介・・・4
・エコミューズの資料を活用して執筆された書籍紹介・・・6
・活動記録（来館者、資料整理状況、寄贈者、寄附者）・・・7

ごあいさつ

エコミューズ設立10周年を迎えて

エコミューズ館長 小田康徳

エコミューズ（西淀川　公害と環境資料館）が産声を上げたのは2006年のことだった。だから今年はそれから10年となる。

振り返ってみれば、当初は思いもよらなかったさまざまなことをやってきた。あおぞら財団職員の方々やアルバイトの方々などのご努力で、西淀川大気汚染公害裁判の資料など、足元の公害関係資料の整理と保存に取り組んできた。これは基本的作業と言っていいだろう。日本の公害問題史の中でも重要な意義を持つ貴重な資料を後世にきちんと引き継ぎ、さらにその運動の姿や意義を客観的に考察できる条件の整備に努力してきたのである。またこの10年で3600人を超す来館者の方々があったのだが、西淀川公害の過去と現在の姿をよく知ってもらうため様々な研修事業にも力を注いできた。そうした活動に加え、ここ6～7年は環境再生保全機構の発信する全国的な大気汚染公害裁判記録のWEBコンテンツの作成（「記録で見る大気汚染と裁判」）と関連地域の資料整理事業に協力し、近年では公害資料館の可能性を求めてスタディツアーや公害資料館ネットワーク事業などの中心となり、全国的な働きかけも重ねてきている。

この10年の活動は、結局のところ、公害とは何だったのかという問いかけであり、答えを求めるための基盤として資料を生かす方法をめぐる努力の積み重ねであったと思う。

いま、エコミューズ10年を記念し実現したいことが一つある。企業と和解したのが1995年3月、自動車排ガスをめぐって国・阪神高速道路公団と和解したのが1998年。すなわちもう20年前後が経過しているのである。この間、社会のありようは大きく変わり、和解の当事者たちもほとんどが現役を引退した。公害に代わって環境、地域再生といった課題が大きくクローズアップされてきている。一方、アスベストの問題や原発事故の問題が表面化しているのもこの間の出来事である。過去に経験した公害は現在に対しどんな意味を持っているのか、いま問われなおしているのではなかろうか。

都市的アイデンティティ研究会をエコミューズの中に組織し、今日のように都市化した西淀川区の歴史的・社会的特質に関するアイデンティティの形成を考察し、その真の姿を解明するための資料を集め、公開できるようにしたい。これは、西淀川公害裁判に寄せた多くの被害者・患者さんたちの思いと行動、その後に始まった公害地域再生事業。それらの理念を再確認する道でもあろうと思う。もちろん、その過程では、様々な反省事項も見えてくるものと思う。もちろん、深い反省は、進歩のための基本条件である。

エコミューズ開館10周年を期し、以上のことを私は思い切って提言する。とりあえずの活動期限としては、3年ぐらいをめどに設定したい。もしこれが実現できるなら、これをもって、西淀川公害とそれと闘った裁判闘争の歴史的教訓を今に生かす、真に基本的な資料となるだろう。この資料館だよりをお読みになる皆様に、こうした活動の趣旨をご理解いただき、併せて必要な資金援助を心からお願いする次第でもある。

＊巻末の「寄付のお願い」をご参照ください

年表　2006年3月～2016年3月31日

2006年

3月18日	●西淀川・公害と環境資料館オープン　愛称は公募（1403件）の中から「エコミューズ」に決定
9月30～10月15日	●記念シンポジウム「環境再生の時代に公害経験から学ぶ～公害・環境問題の保存と活用に向けて」（西淀川区民会館）220名参加 ●エコミューズポスター3種完成（大阪市立近代美術館設立準備室心斎橋展示室「アジアのグラフィックデザイン展」出展作品 ●西淀川公害裁判資料と西淀川公害反対運動資料の電子化を行う（2006～2008年度独立行政法人環境再生保全機構委託業務「日本の大気汚染公害経験の情報発信に係る業務」）

2007年

3月15日 3月25日	●リーフレットとロゴマーク作成 ●運営協議会開催（以下、毎年1回開催）
12月	●1周年記念「みんなで歩こう西淀川の歴史めぐり」 ●環境省職員研修受け入れ開始 ●展示作成のための寄付呼び掛け

2008年

3月20日	●西淀川公害患者と家族の会編『西淀川公害を語る』（本の泉社）出版　エコミューズも多数の資料提供
5月31日	●第2回「みんなで歩こう西淀川の歴史めぐり」
12月	●司法修習生研修受け入れ開始 ●常設展示パネル「公害　みんなで力をあわせて　大阪西淀川地域の記録と証言」完成
12月12日	●展示パネル完成・おひろめ会

2009年

4月4日 5月5日 8月4～6日	●第3回「みんなで歩こう西淀川の歴史めぐり」 ●展示パネル貸出開始　第1号は四日市市環境情報センター ●公害地域の今を伝えるスタディツアー2009～富山・イタイイタイ病の地を訪ねて～（45人参加　地球環境基金助成事業）
9月13日	●シンポジウム地域資料の保存と活用を考える（第3回）大阪の公文書館をめぐる現状と地域資料保存・活用の課題（地域資料シンポ実行委員会）エコミューズも実行委員会の一員として参画
11月19日	●第35回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国（福島）大会「わたくしたちのアーカイブズ―公文書館と地域資料―にて「公害の経験を伝える資料館－西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）－」を報告
12月19日	●四日市公害環境市民学校2009にて「西淀川公害と地域再生」報告

2010年

8月4～8日	●公害地域の今を伝えるスタディーツアー2010～新潟・水俣病の地を訪ねて～（43人参加　地球環境基金助成事業）
6月～10月 9月	●大阪市立西淀中学校調べ学習協力　文化発表会にて発表 ●エコミューズホームページリニューアル

2011年

5月	●日中共同持続可能な発展（SD）人材育成事業短期研修プログラム（京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター、中国国際青年交流センター、中国国家発展改革委員会研修センター）受け入れ開始（2012年まで）
7月	●2009～2011年度独立行政法人環境再生保全機構委託業務「『大気汚染と公害』に係るホームページコンテンツの製作」にて、環境再生保全機構のwebサイトとして「記録で見る大気汚染と裁判」を開設
8月8～11日	●公害地域の今を伝えるスタディツアー2011～大阪西淀川・大気汚染の地を訪ねて～（49人参加　地球環境基金助成事業）
9月～10月	●西淀川図書館展示「西淀川の水害」
11月4日	●大阪市公文書館講演会「時を貫く記録の保存～公文書館と民間のアーカイブ～」 報告
12月	●中国環境NGO長期研修受け入れ開始
12月4日	●西淀川公害患者と家族の会40周年記念誌作成
12月3日	●公害地域の今からはじめようシンポジウム 富山イタイイタイ病・新潟水俣病・大阪西淀川大気汚染のスタディツアーを通じて

2012年

9月～10月 12月17日	●四日市と水島の公害裁判資料整理スタート　2012～2014年環境再生保全機構委託業務「ホームページコンテンツ『大気汚染と裁判』に係る掲載情報の拡充等業務（公害裁判に関する公開資料の選定および電子化並びにコンテンツの作成等）」 ●大阪ミュージアム構想にエコミューズが登録 ●西淀川図書館展示「映画『娘たちは風にむかって』」 ●あおぞらイコバ・佃でみせ開催　その後、内容をまとめて『おもろいわ西淀川佃のむかしどんなところ？』発行

2013年

3月30日	●除本理史・林美帆編著『西淀川公害の40年』（ミネルヴァ書房）出版　お披露目会を5月19日に開催
3月24日	●あおぞらイコバ・福でみせ　開催『おもろいわ西淀川　福の漁港どんなところ？』 発行
3月	●ホームページ「公害　みんなで力をあわせて　大阪西淀川地域の記録と証言」作成
5月27日	●あおぞらイコバ・佃でみせ2　開催
5月、7月 8月	●都市型インタープリテーション講座開催 ●「おもろいわ西淀川」facebookページ開設　2013年2014年とおもろいわ西淀川アワードを開催し、西淀川図書館にて展示
12月7日	●公害資料館ネットワーク設立
12月7～8日	●第1回公害資料館連携フォーラムin新潟（環境省「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」全国事業）

2014年

2月2日	●あおぞらイコバ大和田でみせ大阪マスジドどんなところ？開催
5月20日	●国立国会図書館レファレンス協同データベース登録
6月	●IATSSフォーラムの研修（ASEANの若手リーダー）受け入れ開始（2015年まで）
8月19日	●あおぞらイコバ・佃でみせ3　開催
10月	●内閣府『持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014年）ジャパンレポート』に日本の優良事例として掲載
11月12日	●持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議（名古屋国際会議場）サイドイベント「マイノリティの視点に立ったESD～地域の事例と今後のための提案～」共催および事例発表
12月5～7日	●第2回公害資料館連携フォーラムin富山（環境省「平成26年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」全国事業） ●四日市・公害と環境資料館展示作成および語り部育成、協力

2015年

2月11日	●千葉川鉄公害裁判資料および東京大気汚染裁判資料整理スタート　2014～2019年度独立行政法人環境再生保全機構委託業務「公害裁判（東京大気汚染公害訴訟及び千葉川鉄公害訴訟）に関する公開資料の収集、整理等務」 ●おもろいわ西淀川　大集合！（西淀川区民ホール）開催
4月26日	●日本アーカイブズ学会2015年度大会企画研究会報告「公害資料館の利用拡大のための試み－西淀川・公害と環境資料館と公害教育－」
7月19日	●みんなで公害を学びあおう　福島原発の被災者と西淀川大気汚染の被害者から　開催
8月7～23日	●徳島県立人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）特別展示「環境汚染がもたらす健康被害、人権被害～人権の視点からの地域再生～」（8月20日に講演会開催）
9月27～28日	●公害資料館ネットワーク　資料保存研究会開催（水俣市立水俣病資料館、国立水俣病総合研究センター）
12月11～13日	●第3回公害資料館連携フォーラムin四日市（環境省「平成27年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」全国事業）
12月	●『体験の機会の場』（環境教育促進法）に認定　全国11例目近畿初事例

2016年

3月27～28日	●西淀川公害から学ぶってなにを？　開催

エコミューズトピックス紹介

公害資料の電子化

「記録で見る大気汚染と裁判」
●環境再生保全機構webサイト

公害資料の電子化は2006年のオープン時から始まっています。環境再生保全機構の委託事業として2006年から3カ年かけてエコミューズが所蔵している西淀川公害の裁判資料や公害反対運動資料を電子化しました。その後、活用を促進するために、2009年度から環境再生保全機構のwebサイトに「記録で見る大気汚染と裁判」を開設して、西淀川公害だけではなく、他地域の大気汚染公害裁判についての概要と資料の保存場所が分かるようにしました(http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/)。西淀川公害裁判の記録(2012年度)を公開しましたが、西淀川公害裁判の資料を整理した経験を他地域に広げるべく、倉敷(水島)・四日市・千葉・東京の裁判記録の整理を手掛けてきました。
この活動によって、大気汚染公害裁判の資料保存と公開の大切さが当該各地に広がり、裁判資料を活用する人が増えてきました。また、ここでのつながりが「公害資料館ネットワーク」につながっていきました。

展示パネル「公害 みんなで力を合わせて」

2006年のオープン時に、多くの人から寄せられたのは「展示パネルが欲しい」という要望でした。同時期に、環境教育分野で「公害学習の要望がない」との悩みから、環境教育の関係者にヒアリングした際、「被害者以外の視点(企業・行政・医者・マスコミ・学校など)が欲しい」との声があがりました。そこで「西淀川地域研究会」でヒアリングしてきた記録を元に展示を構成し、人に見てもらえるようにとデザイン面でエコミューズのスタッフだった増田純子さんの尽力があって2008年に出来上がりました。このパネルは貸出対応と、webサイト対応がされています(http://aozora.or.jp/nishiyodogawakougai/)。
いろいろな視点から公害を見るという姿勢は、エコミューズで公害教育を展開する上での基本を築き、2005年から展開されていたESD(持続可能な開発のための教育)と合致し、公害地域の今を伝えるスタディツアーにつながっていきます。

公害地域の今を伝えるスタディツアー

2011年大阪スタディツアーの様子
大阪湾沿いにある関西電力堺港発電所
ツアー3日目 (8月10日)

2009年から始まったスタディツアーが生まれたきっかけは理事の高田研先生からの一言でした。「四大公害裁判の今はどうなっているのか、そして、西淀川公害は公害問題の中でどこに位置づけられるのか。中学生レベルが分かる言葉にしないと教育実践が増えない。西淀川だけではだめだ」という厳しい意見から、大学生をひきつれて富山イタイイタイ病・新潟水俣病・大阪西淀川大気汚染の様々な立場の人たちにヒアリングして、提案を発表するという壮大なプログラムを実施することとなりました。この取組は、「交渉」ではなく「教育」という立場に立っているから原因企業のヒアリングが可能となったことも大きな収穫でした。参加者は、汚染問題は現在も課題が残り、立場が違う人たちの視点が違うことから、対話が難しい現状に頭を抱えました。一方、参加者から、対話の重要性を問いかけられた当事者は、参加者の気持ちに応える動きを見せました。双方向の学びの可能性からESDの優良事例にも選ばれ、公害資料館ネットワークのつながりの基礎となる信頼関係をエコミューズと新潟・富山で築くこととなりました。

公害資料館ネットワーク／公害資料館連携フォーラム

2013年度に環境教育促進法によるモデル事業(地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業)の募集が始まり、新潟県立環境と人間のふれあい館の館長である塚田眞弘氏から、公害資料館で交流する機会を持ちたいので、あおぞら財団が事業に応募してもらえないかという相談を受けました。あおぞら財団の設立趣意書には「世界各地の公害の防止に役立てるため、わが国の公害経験に関する情報を提供するとともに、公害地域の再生に向けた国際的な市民ネットワークの形成をめざします」とあり、エコミューズ設立以前から公害裁判があった各地に資料の保存を呼びかけ、シンポジウムなどを行っていたこともあり、事務局を引き受けることとなりました。

2014年12月 第2回公害資料館連携フォーラムin富山

公害資料館ネットワークは、公立の公害資料館のみならず、民間の公害資料館や地域再生の活動を行っている団体に呼びかけました。主義主張も、伝える内容も違う団体が交流することに最初は緊張感が漂っていましたが、2013年新潟、2014年富山、2015年四日市とフォーラムを開催し、対話と議論を重ねたことで、立場が違えども協働できる信頼関係を築くこととなりました。2014年には、原因企業の神岡鉱業株式会社を分科会のゲストに招くこととなり、公害反対運動と公害を学ぶ活動は違う位相を持つものであると世に示すこととなりました。2015年には公害資料館協働ビジョンを策定しています。
エコミューズがこれまで積み上げてきた実践をもとに公害資料館ネットワークを形成してきましたが、異なる立場の人たちが学びの場を通じて対話を重ねることが公害教育の醍醐味の一つであり、その「ワクワク」な気持ちが全国に広がっていることを実感しています。

西淀川にお越しください！

エコミューズでは、西淀川公害のレクチャーと公害患者の語り部のお話、地域のフィールドワークなどを組み合わせた研修を実施しています。参加者の関心に応じたオーダーメイドの研修で、関心に応じてワークショップを実施したり、西淀川公害反対運動のリーダーや弁護士、医療関係者や地域の方にお話を聞いたり、現地ならではの内容をめざしています。近年は大気汚染に直面しているアジア諸国からの視察や、人権研修の依頼も増えています。

みなさまもぜひ西淀川での研修にお越しください！

[研修申し込み方法]
ご希望の日時、ご関心のある研修テーマ、参加予定人数などをメール、お電話、ＦＡＸなどでお知らせください。受付後、詳細については改めてご連絡いたします。

詳しくはエコミューズＨＰへ　http://www.aozora.jpn.org/ecomuse/annai/kensyu
基本コース　：半日、1日間、2日間、3日間
研修テーマ　：公害、地域再生、まちづくり、裁判、大気、交通、歴史、環境、人権、教育、ESDなど
受け入れ人数　：1人から50人まで対応可(それ以上は要相談)
費用　：1時間10,000円(基本的にはスタッフ2人同行、3人同行の場合は15,000円)
近日中にゲストハウスを開業予定！　ご宿泊もご相談ください

エコミューズの
資料を活用して執筆された

～書籍紹介～

西淀川公害患者と家族の会の視点から書かれた「西淀川公害」が分かります。西淀川公害反対運動の特徴は、原告勝利判決後に地域再生の案を掲げて企業と国と和解した点にあります。和解に至る裏側を知ることができる貴重な本です。

『西淀川公害を語る　公害と闘い環境再生をめざして』
西淀川公害患者と家族の会 編　　本の泉社 2008年

前半は公害患者が、まちづくり・医療・学校・消費者または生協団体と、協力して公害反対運動を戦ってきた過程について、資料に基づいて書かれています。後半では、エコミューズがヒアリングしてきた企業・行政・弁護士・公害患者の証言が掲載されています。

『西淀川公害の40年 持続可能な環境都市をめざして』
除本理史・林美帆 編著　　ミネルヴァ書房 2013年

第5章に「大気汚染公害に見る遡滅の構造」として入江智恵子さんが西淀川公害について執筆してくれています。大気汚染・土壌汚染・廃棄物問題等での遡滅構造に着目にし、各事例の共通点から「真の解決策」を提言しています。

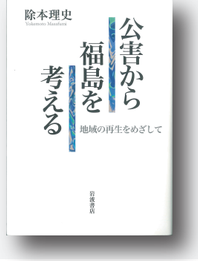
『公害遡滅の構造と環境問題』
畑明郎・上園昌武 編　　世界思想社 2007年

エコミューズ館長の小田康徳先生がまとめられた著書。戦前の公害問題から展開している点がポイントです。「公害問題が問いかけているもの」として「制度・システム」「人間・意識」「学問・技術」といった様々な視点で論じられています。

『公害・環境問題史を学ぶ人のために』
小田康徳 編　　世界思想社 2008年

公害研究のパイオニアである、宮本憲一先生がまとめた大著です。四大公害裁判以後について言及されている本は多くないのですが、本著は西淀川公害反対運動の意義まで言及されており、西淀川公害の立ち位置が分かる本となっています。

『戦後日本公害史論』
宮本憲一 著　　岩波書店 2014年



福島原発事故の復興と、公害地域の再生の事例（西淀川の地域再生と水俣のもやいなおし）を比較することから、福島の方向性を探っています。西淀川の事例については『西淀川公害の40年』がベースとなっています。

『公害から福島を考える　地域の再生をめざして』
除本理史 著　　岩波書店 2016年

活動記録

2006年3月～2016年3月31日

10年間で合計3619人が
来館してくださいました!

来館者数

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
487	259	392	337	423	210	372	372	386	381

資料整理状況　（2016/3/31現在）

種類	おもな内容	分量と整理状況
書庫資料[閲覧のみ]	会議資料、メモ、手帳、チラシ、ビラ、新聞スクラップ、たすき、横断幕、機関紙、写真、8ミリ、スライドなど、すべて個人や団体からの提供によるもの	ダンボール箱約250箱分収納。うち約3分の1にあたる59625点分の目録あり
西淀川大気汚染公害裁判記録[閲覧のみ]	準備書面、書証、弁論調書、証人調書、検証調書など西淀川公害裁判の全訴訟記録	計266冊開架。目録あり
開架図書・資料[貸出可]	大部分は図書類。その他、各地患者会の総会議案書やシンポジウム、集会の資料など。個人や団体からの寄贈図書、行政からの配布物、財団業務のための購入図書、収集資料など	7727点の図書等を開架。目録あり
ビデオライブラリー[貸出可]	西淀川公害に関するオリジナル制作ビデオ、報道録画映像、語り部映像、昔の西淀川の風景、教材ビデオなど。VHSとDVDあり	VHSテープ157本、DVD345枚

寄贈者　（敬称略　50音順）

相川泰　あいぼーと徳島(徳島県人権啓発推進センター)　明仁憲一　浅井真二　朝日新聞社　朝日新聞社東京本社　尼崎公害患者・家族の会　尼崎市　尼崎市立地域研究史料館　尼崎南部再生研究室　天野憲一郎　天野松男　雨宮洋美　栗屋かよ子　安藤聡彦　ESD－J(特活)持続可能な開発のための教育推進会議　池田佳子　池田理知子　石井とおる　石川和宏　石川遼子　井関嵩博　イタイイタイ病対策協議会　市村康　一方井誠治（一財)水俣病センター相思社（一社)農山漁村文化協会　伊東千秋　井上有一　井上善雄　茨木市　入江智恵子　上園昌武　植田和弘　上田敏幸　上田長生　上野昌江　SGホールディングス(株）江頭説子　NPOみなまた　遠州尋美　遠藤宏一　逢坂隆子　王明哲　大口耕吉朗　大久保規子　大久保昌一　大阪から公害をなくす会　大阪経済大学　大阪経済大学地域活性化支援センター　大阪公害患者の会連合会　大阪市　大阪市教西大阪支部　大阪社会運動協会　大阪市役所労働組合　大阪市立歌島中学校　大阪市立淀商業高等学校　大阪人権博物館(リバティおおさか)　大阪府　大阪府みどり公社　大阪府立今宮高等学校　大阪府立西淀川高等学校　大阪歴史博物館　大島堅一　太田映知　太田博子　大野みさ子　岡崎久女　岡田和弘　岡本英晃　岡本真澄　尾坂かふ公害をなくす会　尾崎寛直　小平智子　小谷通泰　小田康徳　織原泰　香川雄一　学芸出版社　学習院大学大学院　拿木宏夫　樫本喜一　柏原誠　片岡直樹　片岡法子　金沢大学日本史学研究室　金原功　蒲田雄輔　(株)OMソーラー協会　(株)宣伝会議　(株)ワークルーム　(株)すいれん舎　神長唯　亀岡哲也　川合千代子　川崎まちづくり研究室　環境省　環境省水・大気汚染環境局　環境省総合環境政策局　環境友好公益協会　北元敏夫　京都大学経済研究所KSI企画戦略室　久保裕　熊本学園水俣学研究センター　熊本中央法律事務所　グリーンコリア　黒岩晴子　小磯明（公財)環境科学総合研究所（公財)日本野鳥の会（公財)日立環境財団（公財)ひょうご環境創造協会（公財)水島地域環境再生財団　公害環境測定研究会　公害地球環境問題懇談会　交通エコロジー・モビリティ財団　鉱毒史編纂委員会　神戸女学院大学人間科学部　神戸大学人文研究科倫理創成プロジェクト　神戸大学大学院人文学研究科　神戸大学文学部　神戸大学文学部地域連携センター　国際協力NGOセンター　国土交通省　国文学研究資料館　児玉和人　こどもエコクラブ　小林啓幸　小林光　小松義久　小山勝己　埼玉県立総合教育センター　斉藤寛　佐賀朝　崎山比早子　櫻井次郎　桜木町自治会　笹井浩　佐々木隆生　サスティナビリティ学連携研究機構　沢畑　澤井余志郎　シーズ・市民活動を支える制度をつくる会　滋賀県国際協会　重岡伸泰　芝村篤樹　嶋田綾子　島田克彦　島根大学法文学部上園ゼミ　市民運動資料研究会　清水万由子　下田守　社会教育推進全国協議会　笑福亭仁勇　庄谷邦幸　白戸渓子　震災・まちのアーカイブ　進士五十八　神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会　新横田基地公害訴訟団・新横田基地公害訴訟弁護団　水都大阪2009実行委員会事務局　水平社博物館　諏訪哲郎　瀬田史彦　全大阪生活と健康を守る会連合会　全国環境教育ネットワーク事務局　全国公害患者の会連合会　全国公害弁護団連絡会議　全国公害被害者総行動実行委員会　全国歴史資料保存利用機構連絡協議会　青年法律協会大門信也　高木勲寛　高田研　谷合佳代子　谷内久美子　地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）　地球市民共育塾ひろしま　張亜東　中国環境問題研究会　敦賀短期大学地域交流センター　帝国書院　出口耕路　寺西俊一　東京大気汚染公害裁判弁護団　堂見俊雄　徳島市（特非)関西国際交流団体協議会（特非)市民フォーラム21・NPOセンター（独)環境再生保全機構　富田重行　友澤悠季　豊中市　鳥山大樹　中島晃　長瀬文雄　長野義春　永松伸吾　中山祐二　新潟水俣病共同会議　西口勲　西須磨都市計画道路公害紛争調停団　西村仁志　西村弘　西淀川公害患者と家族の会　西淀川図書館　日経BP社　新田保次　日本環境会議　日本環境教育フォーラム　日本共産党大阪市会議員団　日本都市計画学会　日本都市計画学会関西支部・広報委員会　日本野鳥の会・大阪支部　野田阪神駅前地区ゆったり歩けるみちづくり協議会　野呂汎　野呂雅之　畑明郎　馬場明男　林公則　林宏　林美帆　原田智代　坂東克彦　姫島小学校　平尾麻里子　平田裕之　広川禎秀　深見近仁　福井史料ネットワーク　福島県地球温暖化防止活動推進センター　福島幸宏　福島区公害患者と家族の会　福山市人権平和資料館　藤井克巳　藤井久美子　藤江徹　藤岡貞彦　藤岡太造　藤川賢　藤永のぶよ　防災科学技術研究所　牧洋子　増井忠幸　増渕昌利　松岡弘之　松岡資明　松田毅　松村暢彦　眞鍋麻衣子　水野順子　道場親信　みどり保育園　水俣市立水俣病資料館　水俣フォーラム　南区公害患者と家族の会　南慎二郎　南聡一郎　宮本憲一　民主教育委員会　向井嘉之　村松昭夫　森晶寿　森五宏　森本米紀　森脇君雄　八木一夫　薬害イレッサ訴訟原告弁護団　安本史恵　柳尚夫　矢羽田薫　山岸聡　山崎圭一　山田綾子　山田喜美子　山中英生　山西良平　山本元　除本理史　吉田長裕　吉田誠宏　吉田雄亮　四日市公害市民塾　米田憲司　李秀容　立命館大学国際平和ミュージアム　立命館大学大学院政策科学研究所　立命館大学文学部　緑色竜江　龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コース　龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター(LORC)　歴史伝承委員会　ワークルーム　脇田武利

寄付者　（敬称略　50音順）

エコミューズの活動を継続的かつ発展的にすすめていくために寄付を募っています。これまでの10年間で、 4,758,770円のご寄付をいただきましたことを、ここにご報告し、御礼に替えさせていただきます。たくさんのご支援、ありがとうございました。

浅井真二　天坂幸治　飯島裕希　石井琢也　井関和彦　井上義雄　植木佳子　植田和弘　上田幹枝　植村和弘　エコミューズ募金箱寄附金　遠藤宏一　大分県先哲史料館　大阪公害患者の会連合会　大阪ファルマプラン　大阪歴史学会近世史部会近代史部会　大橋孝子　岡本敦子　小倉英樹　小田周治　小田康徳　鏡森定信　柏原純夫　片岡法子　金谷邦夫（株)神戸製鉄所　河合治郎　河原大展　ギブワンオンライン寄附金　蔵本幸治　小池信太郎　是枝洋　佐賀朝　酒井健一　阪田健夫　澤井余志郎　塩貝隆夫　柴田昌美　芝村篤樹　清水万由子　庄谷邦幸　白石賢二　白石正久　水平社博物館　高宮信一　谷内　津留崎直美　出江俊夫　トヨタカローラ新大阪（株)西淀店　中島晃　西口勲　西淀川地域研究会　西村勝男　西村聡　西淀病院　新田保次　野口好和　野尻節雄　萩森繁樹　長谷川賢二　浜一事務機器販売(株）　早川直美　林久和　東住吉新婦人　日鷹充宏　人びと展入場者　部落解放・人権研究所　前田正和　松井清志　松岡弘之　松本剛一　見市恵美　南清吾　三宅宏司　宮本憲一　村松昭夫　森実千秋　矢作正　藪内吉彦　山崎圭一　山崎みどり　山本一一　鎗山善理子　除本理史　横山篤夫　吉田巌　和田美頭子　渡辺武